

強制的遠隔授業下での大学生の学習に関する  
レジリエンスの調査 (3)  
—自由記述の結果と考察—

川原 誠司

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第8号 別刷

2021年8月31日



# 強制的遠隔授業下での大学生の学習に関する レジリエンスの調査 (3)<sup>†</sup>

## —自由記述の結果と考察—

川原 誠司\*

宇都宮大学共同教育学部\*

今回の一連の論文は、COVID-19の感染予防のために強制的遠隔授業状況において、良好な成績を修めた学生がどのような点に留意して学習していたかを調査し、学生のレジリエンス（精神的弾力性）のある学習姿勢を明らかにするものである。それにより、遠隔授業における学生側の能動的対処行動の重要性について明らかにし、それが通常授業を含め大学授業全般にも還元できることを示すものである。本稿（第三報）では、自由記述の内容を分類・分析し、学生のレジリエンスに関する行動を検討した。授業者の方法に対して学生なりの工夫や意味を見出そうとする積極的な姿勢がうかがえた。

キーワード：COVID-19, 遠隔授業, オンライン授業, 学習におけるレジリエンス

### 1. レジリエンスに関連した自由記述について

今回の調査手続きの詳細は第一報（川原, 2021a）で行っているが、本稿では調査中の自由記述の部分に関して結果を示し、考察する。

自由記述については、調査の中で「質問1」として行った計量的項目（川原, 2021b）の後に質問したので、「質問1」に挙げた項目の他に、本授業に関して自分でおこなったことや意識したこと、他の人と比べて感じたことがあれば自由に書きください。できるだけ具体的に出来事や事象を書いていただく今後の参考になります」という指示をし、自由に記述してもらった。

回答者の記述量には個人差があったが、それぞれの回答者の記述を意味のある文章単位に分けて、記述内容の分類を行った。その上で文章ごとに類似のものをまとめる作業を行った。

分類の結果は次ページからのTable1のとおりで

ある（3ページにわたっている）。この分類並びに記述内容を踏まえて検討を行う。

なお、記述文についてはほぼ記述通りであるが、人名やサイト名などの固有名詞の部分について削除したり、誤った書名の部分や教員の敬称が誤った職位名になっている部分を修正したりと一部変更、削除を行っている。しかし、文意については全く変更していない。

### 2. 自由記述の分類と考察

#### (1) ノートテークング [分類A]

ノートの工夫については計量的項目でも質問しており、その際にも今回の対象学生の意識が高いものとして明らかになったが（川原, 2021b）、自由記述においてもこのことが多くの学生から細かく述べられていた。

音声の情報を書き入れたとするものがあり [A1, A2, A10, A11, A12, A15, A19, A24]、単にスライドの文字を取るだけでなく、説明を聴きその意味を考えながら書き込んだ様子が見られた。

また、具体例や自分で考えたこと、感じたことを記載したというものもあった [A2, A3, A4, A6, A15, A16, A18]。用語だけであればイメージがしにくいときに、それを具体的に憶えられるように回答者が工夫していることがうかがえた。

<sup>†</sup> Seishi KAWAHARA\*: Survey of resilience in learning among college students under compulsory distance learning (3) : Results and considerations of free-form description

Keywords: COVID-19, distance learning, online class, resilience in learning

\* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

(連絡先: kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

Table1 自由記述の分類

## A. ノートテークング

- スライドにあることをそのままノートに写そうとすると、転記に夢中になってしまい、内容が頭に入らなくなってしまふ。そのため、
- A1 め、音声に耳を傾けながら、後々自分が見返した時に内容が思い出せる、自分にとって分かりやすいノートを意識してとった。他の人に見やすい、というのは正直あまり意識していないので、後れを取らないよう、色ペン等あまり用いず、シンプルにした。
- A2 見返した時に、具体例があると分かりやすいので、音声の具体例等をとるように意識していた。
- 授業の中で先生が「〇〇について考えてノートに書いてみましょう」や「調べてみましょう」とおっしゃったことに対して（課題やレスポンスではないもの）、自分の経験や考え、調べた情報からノートにメモを取り、自分なりにその事象について具体例をもって考えるようにしました。
- A3
- A4 そのときに感じたことも一緒に書くことと印象に残るので、所々に感想を入れたり、自分でまとめを書き足したりしました。
- A5 講義資料のスライドの内容を全てノートに書き写す時間はないので、要約したり、自分の言葉でまとめて、自分がかかる、見直ししやすくなる、ということ意識してノートを作りました。
- 授業のノートの取り方としては、先生のアドバイスの基に行っていた。ただパワーポイントに書かれている内容を写すのではなく、自分で考えたこと・もっと調べてみたいことを書き出すなどして、「自分ノート」を作るようにした。また、授業の課題として何回か調べ学習があったが、その時も自分で調べて分かったことを付箋に書いて貼ったり、見開きのページを上手く活用してまとめたりするようにしていた。後で見ても内容を理解出来るような、「見やすいノート」になるよう意識していた。
- A6
- 授業の内容をノートに書く際、私はイラストを用いるようにしていた。「教育相談」というのもあって、内容を可視化した方が理解しやすくなる場面が多くあった。言葉だけでなくイラストを交えながらまとめることでより授業の内容も、考えるべきポイントも理解しやすかった。簡単なイラストを描いて整理するという方法をおすすめする。
- A7
- ノートをとる際に配色にも注意した。本当に大切なポイントは赤、考えるべきポイントは青など自分で色を決めてまとめていた。あまり色が多すぎても見づらくなってしまふので、赤・黒・青の三色でまとめるのがベストである。
- A8
- 前期に努力して作り上げた「自分ノート」は私の貴重な財産になった。授業の受け方、ノートの取り方の大切さを私も前期の授業で知ることが出来た。
- A9
- 授業のノートの移し方に関しては、パワーポイントの文字に加え先生がおっしゃった要点などを書き込むようにしていました。音声を特に意識しながら授業を進めていたと思います。
- A10
- ノートの提出が成績に関わっていたので、授業資料に書いていないこと(音声)で大切なことをメモすることに集中していた。メモしながら授業を受けていると、聞き逃してしまったり、メモが授業の進度に追いつかず、音声をいったん止めたりすることなどをしていった。そのため、授業全体の進度に追いつくことが大変な時が多かった。
- A11
- 他の人と比べる機会がなかったので、分からないが、音声で大切なことをメモしたことは、他の人よりも少しはできていたのではないかと思うし、私がこの授業を受けた経験からもそうだとと言えるほどには、努力していたと思う。
- A12
- 私的に資料のどの部分も重要に思えたため、一部同じ内容を省略することはあったが、書き漏れがないようにできるだけ全てノートに写すようにした。また、資料に加えての音声の説明であったため、音声を聞きながらノートに写して追加のメモを取ってという器用なことができないので、先に資料を写してから音声を聞いていた。そのため、想定されていた時間を必ず超えてしまうことが毎回の苦であり、他の人はどうやって時間通りに終了させているのだろうと思っていた。
- A13
- ノートを取るときは、自分自身だけでなく誰が見ても分かるように書くことを意識した。
- A14
- 本授業だけのことに関係していえば、先生が挙げてくださった例をノートに記すことを意識いたしました。板書だけではあとで見返したときに、思い出すのに時間がかかるためです。
- A15
- 後に調べたことを書き足すことができるように余白を十分にとってノートをとったこと、後に見返したくなるように自分がそのとき思ったことや考えたことを付箋に残すことなどを行いました。
- A16
- ノートをとる際にどの項目を何色のペンで書くかというのは1回目の授業で決めて、それ以降継続することで余計な悩む時間をとらないように心がけた。
- A17
- 授業中は、先生が提示してくださる例示とともに自分自身に対応させてイメージしたりしていました。
- A18
- 講義資料に書いてあることだけでなく、先生が言ったことや調べてわかった補足説明などを積極的にノートに書くようにしていた。
- A19
- ノートをとる際に、講義資料に書いてあったことと自分が書き足したことを色分けしてわかるようにしていた。
- A20
- パワーポイント資料は授業時間内にノートにまとめるようにしましたが、限られた時間の中ではどうしても先生の解説で聞き逃してしまうところがあったので、あらかじめノートに広い余白をとっておいて、授業後の空いた時間に再度まとめられるようにしました。
- A21
- ノートは音声を聴きながらざっとメモした後授業後に習った単語について調べてみたり、自分の意見を書く欄（メモ欄）毎回作っていました。
- A22
- イラストをつけると、あとで自分で見たときに見やすくなるようにイラストを書くなど工夫しました。
- A23
- 私が本授業で最も意識したことは先生が話している重要なポイントを積極的にメモすることである。パワーポイントに書かれている内容はもちろん大切だが、先生が話している内容は細かく丁寧に説明している点が多いため重要なことを言っている場合が多い。そのため積極的にメモを残すように努力した。メモをとる際には自分が分かれば問題ないため、多少字が乱暴になってしまっても気にせず、必死になってメモをとることを意識した。
- A24
- またその授業内で分からなかった箇所や言葉を必ずメモするようにした。分からなかった箇所や言葉は授業が終わった直後に調べるようにした。少しでも時間が経ってしまうと「後でいいや」となってしまうため、授業直後に調べ、理解するように意識した。
- A25

(Table1の続き)

B. 課題

- B1 「あの時、私が先生だったらどんなふうにも声をかければよかったのかな」などと、内容と自分の経験を結び付けながら学習を行った。「障害などの内容そのもの」というより、その時の「対処法」を重視して考えていた。
- 課題については、自分の小学校時代や中学校時代など、自分の学校教育を振り返りながら課題に取り組むようにしていました。また、こ
- B2 うゆうことがあったら良かったのにな、という自分の願いとか当時こういう仕組みがあれば良かったのにな、ということを考えながら課題に取り組んでいました。
- 課題の内容的に短い時間で終わるようなものではなく、じっくりと考えて提出するような課題が多かったため、締め切りギリギリではなく、なるべく授業が終わった日かその次の日くらいから課題に取り組かり、余裕をもって課題を提出するようにしていました。
- B3 課題で問われている内容に対応したレポートが書けるように、ノートに課題文を書き出し、レポートの構成をメモすることをしていた。特に長い文章を書く際には、実際に紙に書くことによって、頭で考えていることが整理できたので有効だったと思う。
- 毎週出される課題に取り組む際には、その説明文をよく読むように心がけた。(課題の内容や提出期限、書式設定など、情報量が多い場合は特に。)これによって、課題で求められていることを正しく読み取ったり、締め切りを過ぎることを防いだりすることができたと感じている。
- B4 課題に必要な情報は、サイトや論文で積極的に調べるようにした。
- 「症状について自分で5つ程度選択して調べてくる」という課題では、ただインターネットで症状を調べてノートに書き写すだけではすぐに忘れてしまうと思ったので、動画サイトで「トレット症」や「場面緘黙症」などと検索をして実際に症状を見ることで、実感を持ちながらノートにまとめるように工夫しました。特に私がよく見ていたのは、某チャンネルの動画です。症状を持った本人の生の声を聴くことで、症状を理解するだけでなく、その症状によって日常生活にどのような支障が出ているのか、社会からどのような目で見られてきたのかという実際の様子も見ることができ、非常に印象に残りました。
- 授業中に紹介されたトマス・ゴードンの「教師学」の内容が非常に勉強になったため、自分用に購入しました。教員になったときにはもちろんですが、教職ボランティア入門や教育実習など子どもと関わるどんな場面でも生かせるような知識がたくさん詰まっており、購入してよかったと思いました。

C. 時間管理

- 授業の取り組み方としては、毎週木曜日は2コマから始まるのですが早めに起きて目を覚まし、頭をすっきりさせて集中できるようにしました。また、授業開始20分前からパソコンのスタンバイを始め、10分前にはパソコン・ノート・筆記用具が完璧にそろっている状態に
- C1 していました。時には「大変だ、面倒くさい」と思ったこともありますが、他の授業よりも集中することができたり、何より内容の理解を深めることができたと感じます。おそらく、ここまで切羽詰まったオンタイム形式でなかったら(資料が送られてくるだけだったり、zoomで話を聞くだけだったら)理解度は低くなっていたと思います。
- C2 本授業を受ける際に意識していたことは、授業時間内に学習する内容を理解し授業時間後に必ず復習するようにしていた。また、次の授業内容を学習する前にも、前回学んだことは何だったか思い出す時間を作り、復習を欠かさずに行った。
- C3 授業で学習した内容をその日のうちにノートにまとめたり、課題に取り組んだりした。先延ばしにせず、なるべくすぐに取り組むことでストレスを感じにくかったように思う。
- C4 音声はなるべく巻き戻さずに、1回きりで集中して聞くようにしていた。そうすることで、対面授業と変わらない感覚で授業を受けられると考えた。
- C5 授業後は課題の取り組みに時間をかけたかったため、スライドの内容をノートに書き込む作業は、後回しにせず授業時間内に行った。
- 授業自体が興味深く、またリアルタイムで資料が更新されていくため、授業を受けているという実感を持つことができたのが良かったと感じている。他の人はそのリアルタイムで更新していくことを嫌がる人もいたが、オンデマンドとなるとどうしても適当に履修してしまう部分も出てくるので、この形式で時間通りに取り組んでいくというのは私には非常に合っていたように思う。
- C6 意識したことは、どんなに課題の量が多くて大変であっても、こなそうと思えばいくらでもこなせると思ひこむことです。実際自分はアルバイトに週4のペースで入り、その他に習い事もしていましたが時間を工夫して課題をこなそうと思えば課題の提出が遅れることは無かったように思います。よく、お金がないからアルバイトしなきゃいけないくて、課題をこなす時間が無いと不満を言っていると友達などを目にしますが、意外と一日の時間は活用の仕方次第では余るくらいにあることもあります。そういった時間の組み立て方という部分で他の生徒よりも工夫できたことが良かったのかなと思いました。
- C7 授業中のレスポンスは遅れないように、頻繁にページを読み込むようにしていました。

D. 受講環境

- 機器や機能以外には環境をがらりと変えました。私は日頃、図書館やカフェといった自宅ではない場所で勉強を行います。しかし、緊急事態宣言で外出ができなくなり、自宅で授業を受けざるを得ない状況が続きました。どうしても授業に集中できないということで
- D1 GWに部屋の模様替えをし、授業が受けやすい環境にしたのが私の中での大きな変化でした。具体的には作業しやすい椅子や机を新調し、日当たりを考慮し家具の配置を変えました。私はかたちから入る性格ですので、まず環境や所有物を変えるとということが効果的だったようです。
- D2 家族の協力を得て、授業時間に授業に集中できるように配慮してもらった。(実家暮らし)

(Table1の続き)

- D3 取り組んだこととして、寝不足だと十分に集中することができないとわかったので前日は早く眠るようになったこと、ノートを取りやすくするために机の上を整理してパソコンを置くスペース（基本は膝の上に置いていた）とノートをとるスペースを確保したことはこの授業のためにしたことだ。
- D4 授業中はながら勉強などはせずに授業に集中した。先生の言葉もメモを取れるようにしっかりと聞いていた。
- E. 資料
- E1 資料に添付されたURLの内容は見ているとさらに時間を超えてしまうため、一度ページを開き授業後にURLをコピーしてwordに張り付けて確認できるように工夫していた。
- E2 先生に紹介されたサイトのURLは、後で自分でも検索できるよう可能な限りメモをして記録に残しておいた。これらのサイトが、最終課題に取り組み際、調べるために役に立ったこともあった。
- F. 自らの意識
- F1 授業に向かう心構えとしては、「この先生の授業はいい加減に受けていたら単位がもらえないんだ。一つの漏れもなくノートを取ったり課題を出したりしなければ。」というプレッシャーや緊張感があり、その一方で「きちんとやっている人は良い評価になるらしい。それならば毎回頑張ろう。」という前向きな気持ちにて取り組みました。私はコツコツと真面目に取り組むことが得意な性格なので、期末レポートのみで評価される授業（毎回出席していても必ずしも良い評価になるとは限らない）よりも毎回の出席や取り組みが評価される授業スタイルは向いていると思いました。
- F2 先生の厳しめなお言葉は私の闘志に火を付け、「毎回完璧にノートを取って課題を出して、秀をとってやろうじゃないか。」とモチベーションを維持して授業に取り組むことができました。その点では他人よりもだいぶ高いモチベーションだったのではないかと思っています。
- F3 他人ではなく他の授業と比べると、かなり対面の場合と近いと思われる授業方法・内容であり、むしろ、対面よりも深い学びになっているのではないかと感じることもあった。
- G. 友人サポート
- G1 私はメモすることが遅いため、授業中に書き切れなかった部分に関しては、友人にノートを見せて貰う等をして対応していた。
- G2 まだオンライン授業に慣れていない初期のころは、毎回更新しないとレポート欄が出て来ずに、提出できないなど分からないことがかりで不安になることがたくさんあり、友達と連絡を取り合って状況の確認などを行っていた。同じ授業を受けている友達がいなかったら不安感があった。
- H. 機器
- H1 質問1, 2, 3に関して、問題なく資料を開いて授業を受けることができたので、PC関連で特に何かしたということはありません。
- H2 質問1の2にもありましたが、詳しく申し上げますとタブレットを購入いたしました。教育相談はノートに手書きで授業を受ける形式でしたが、その他の配布資料や自主的に調べたものなどはアプリケーションにダウンロードし、専用のペンシルで書き込みを行いながら授業を受けておりました。私の周りでタブレット端末等を活用している生徒は少なく、中には一旦資料を紙で印刷して書き込んでいる学生もおりました。その手間が省けることがほかの人のと違いだと感じております。
- I. 懸念・不満
- I1 この授業の内容は結構重く、自分の心理状態によっては多少落ち込んでしまうこともあったため、遠隔だとしんどい人いるのではないかと感じた。
- I2 毎回の授業時間であれほどしっかりとした内容で出席や進捗状況を確認できるような方法であったにも関わらず、授業と言えないような他の授業と同じ量の課題がほぼ毎回でていたことには疑問を抱いた。課題を多く出す授業は、出席を取らないため出席の代わりと内容をしっかり読んでいるかの確認のために課題が出されているのだと思う。しかし、教育相談のように出席も取り組んでいる意欲も授業時間内に確認できるのであれば、追加で課題として課題を出さなくてもよかったのではないかなと思った。
- I3 授業の内容は、正直身につまされることも多かったのですが、大変興味深く毎回楽しみに受講させていただきました。
- I4 ノートつながりで感じたのは、最後の返却時にノートについてアドバイスを頂いたのは非常に嬉しかったが、もうこの授業で生かすことができなかったため、写真等での提出となるかもしれないが学期の半ば等で一度アドバイスをいただくことができたよかったなと自分は思った。
- I5 ノートをとるのが遅く、毎回授業内レスポンスが遅れてしまっていました。私の効率が悪く、時間ぎりぎりか遅れてしまうことばかりでご迷惑をおかけしていたと思います。

後で調べて書き足したり、そのための余白をとったりという工夫を示したものもあった [A3, A4, A6, A16, A19, A21, A22, A25]。このような工

夫は授業を能動的に受けていることの証左であり、回答者自身で理解を深めるための学習レジリエンスを発揮していることがわかる。

さらに、イラストを入れたり [A7, A23], 色分けをしたり [A8, A17, A20] という工夫もあった。メモにそれほどの時間的余裕を設定したわけでもないのに、筆者としてはA1やA5, A24のように色使いはシンプルでよいと考え、すべてを取らなくてもよく、字のきれいさも求めていなかったのであるが、そのような色分けのできる筆記力やスキルがあったということであろう。

前段のことは逆に、スライドや音声をほぼ全て取ろうとする回答者もいることがうかがえた [A11, A13]。そのため苦慮している様子もうかがえた。筆者としては、すべての情報を取る必要はないということは事前に伝えて授業していたが (対面でも同様のことを伝えている)、情報の取捨選択が難しかったのであろう。このあたりは受講スキルとしての板書の仕方について、大学全体単位でのガイダンスがより必要なのかもしれない (例えば、法政大学教育開発支援機構 (2020) のような取り組み)。

これらを通してのことであろうが、自分なりのノート、自分にとって理解しやすいノートを作ったという意識も語られている [A1, A5, A6, A8]。中には他の人に見やすいことを考えた者もいた [A14]。自分の財産として肯定的に受けとめる者もあり [A9], ノートをとることに積極的・肯定的な意味づけをする学習レジリエンスも見取れた。

## (2) 課題 [分類B]

自分の経験に基づいたり自分をその立場に置き換えたりして、生き生きと考えようとする工夫 [B1, B2] が見られた。また、インターネット情報を自ら調べて活用した記述もあった [B6, B7]。授業で紹介した文献を購入して読んだという記述もあった [B8]。これらのことから、課題を行う際も決して義務感のみに留まるのではなく、自分で理解を深められるように具体的思考をしたり、自ら更に情報を調べてみたりするという行動をとっているという学習レジリエンスが見取れた。

また、情報をよく見て、計画的に課題遂行をしようとする意識も記述されていた [B3, B4, B5]。このような問題中心の対処ができる力も学習レジリエンスの一つと言える。

## (3) 時間管理 [分類C]

オンタイムの授業を受けるにあたって、事前準備

に余念がなかったり [C1], 時間内に完結するように強く意識することであったり [C2, C4, C5, C6, C8], 授業後の復習を間断なく行う心がけだったり [C2, C3] が記述されていた。このような時間管理の意識は、計量的項目でも時間のメリハリとして注目していたが、そのような「切り替え」を自ら行っている様子もうかがえた。

C7の記述のようにかなり自己管理がしっかりしている記述もあり、なかなかこのレベルまでたどり着ける学生はそう多くはないと推測されるが、逆に言えばこのような気持ちがある程度あると、学修は良好になっていくだろうと思われる。

## (4) 受講環境 [分類D]

計量的項目でも用意した内容ではあったが、自由記述においてもスペース確保 [D3] やながら勉強の防止 [D4] が触れられていた。また、自宅生の場合では家族の協力 [D2] もあったり、部屋の模様替えをした者もいたようだ [D1]。

1つ前の時間管理のカテゴリーとも関連するかもしれないが、どのように授業時間に集中できるかということが、環境の一定の整備に関してもなされることが分かり、成績良好な方の中にそのような面にも心を砕いた人がいることが分かった。

## (5) 資料/自らの意識/友人サポート/機器 [分類E~H]

資料に関する工夫が見られたり [E1, E2] (ほとんどの資料のリンクはC-learning上に残していたので、最終回の授業でスライド上にURLを表示していた分だと考えられる)。自分の勤勉さややる気の意識を高く保っている様子も見られた [F1, F2, F3]。また、困ったときに友人に頼ったというサポート希求も見られた [G1, G2]。これらも回答者の見せた具体的な対処行動であり、よくするためのレジリエントな様子もうかがえた。

機器についても、計量的項目での全体的傾向 (川原, 2021b) のとおり、特に何もなかったという記述 [H1] があった。反面、機器を積極的に導入して活かした記述も1つ見られ [H2], 先駆的な機器について筆者は詳しくなく、何も指示していないので、回答者が自分の個性を十分に生かした工夫であると言える。



### (6) 懸念・不満〔分類I〕

今回の授業方法は最良のものではないので、否定的な印象も持ったことは想像に難くないが、それが自由記述で触れられていたものもあった。

授業内容の“重さ”に関すること〔I1, I3〕や課題の量に関すること〔I2〕、ノートに関する中間評価の希望〔I4〕、ノート取りの遅さの懸念〔I5〕などであった。

授業内容の重さに関しては、遠隔であっても対面であっても差はないように筆者自身は捉えているが(心理的な内容なので、身につまされるという点は否めない)、遠隔で目に見えないが故にメッセージのクッション性が弱い部分によって生じることがあれば考慮しなければならないだろう。

また、課題の量に関しては、第一報(川原, 2021a)でも触れたことであるが、大学設置基準の設定が学生に理解されていない部分もあると思われる。やみくもに課すわけではないにしても、「授業受講+予習復習」というのが単位制の前提であるということをどのように伝えるかも今後重要であると言える。

## 3. 全体的まとめ

今回の一連の調査結果を分析する中で、強制的遠隔授業下であっても学習レジリエンスを持って学び続ける学生の様子が浮き彫りになった。そして今回の知見は遠隔授業下のみに特化されるものではなく、通常の対面授業や他の学修活動においても十分適用される、重要な学習上の視点であろう。

次なる新たな学習状況への発展に向けて、以下のような点を学生自身に考えてもらう教育的働きかけが必要であると感じられた。

### (1) ノートの取り方(授業内容の主体的メモ)

スライド(板書)と口頭の内容を「自分で理解できるようにメモ」するかという点を考えてもらい、全てを写し取る必要はないことも考えてもらう。授業後にどのようにするかといったノートの取り方(余白等)も考えてもらうようにする。

### (2) 課題への意識と取り組み方

予習復習を考慮した大学の単位制について理解してもらい、授業外学習を受講の流れに組み入れてもらう必要がある。また、その際の主体的な課題遂行

について、情報提供など支援しつつも学生本人に意識して工夫してもらう必要がある。

### (3) 聴講する環境や意識の設定

対面授業であっても、受講時の聴講回避的な行動は、私語であったり、スマートフォンの隠れた使用であったり散見されることである。「意欲・関心・態度」という側面は大学生での学びでも重要な視点であるが、その際に学生自身の環境や意識の設定を促すことは何よりも重要であると思われる。

### (4) 自ら工夫する主体的・能動的姿勢

今までのものと関連するが、授業に関して自分でできることは自分で行ってよいものにするという姿勢が必要である。学びに関して回避的になる学生は相当数いるが、それで学習内容が定着することは難しい。当然、教員側の授業工夫も必要ではあるが、学生側に能動的姿勢がないと吸収は難しい。

今回の調査でそのような主体性や能動性の高い学生が存在することは明白なので、そのような学生の雰囲気可能な限り全体的なものに広げていく必要があろう。

## 引用文献

- 法政大学教育開発支援機構(2020) ノートの取り方  
Retrieved from <http://www.hoseikyoiku.jp/lf/images/handbook/pdf/2020/handbook08.pdf>
- 川原 誠司(2021a). 強制的遠隔授業下での大学生の学習に関するレジリエンスの調査(1)——問題点の整理と調査の概要—— 宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要, 8.
- 川原 誠司(2021b). 強制的遠隔授業下での大学生の学習に関するレジリエンスの調査(2)——計量的項目の結果と考察—— 宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要, 8.

## 謝辞

質問紙調査に回答していただいた受講学生の皆様に感謝申し上げます。2020年度前期の混乱下の強制的遠隔授業下でレジリエンスある学びを持続していただいたことに、賞賛と感謝を申し上げます。

令和3年4月1日 受理





**Survey of resilience in learning among college students  
under compulsory distance learning (3) :  
Results and considerations of free-form description**

**Seishi KAWAHARA**